

# 「知事とみんなの愛顔でトーク」における意見・提言の県施策への反映事例

【元年度】

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
元	中予地方局 (松山市)	長期欠席の子どもの支援と貧困問題について (長期欠席の子どもの支援)	<p>学校に行けない子どもが一番多い貧困家庭、長期欠席、虐待とか、ネグレクト、そういった子育てに関する家庭の問題、環境の問題なども多く、それらを解決しながら時には学校と一緒に手をつないで、芽を摘んで、いじめを解決しながら学校復帰までを導いている。</p> <p>県ではどのような対応を考えておられるのか、質問させていただきたい。何かお手伝いできることはないか。</p> <p>（知事から、 ・貧困家庭、格差社会は確実に広がっている。これをカバーするのは、地方でもやらないとけない。子育て応援基金の活用を考えており、（財源を確保するために）どうすべきか、知恵を出してもらおうと、この7月に実行委員会を立ち上げる。 旨回答。）</p>	<p>官民共同による『子どもの愛顔応援ファンド(子ども子育て応援基金)』は、広く県民や企業・団体の皆様の参画を得て、本県独自の子育て支援策の展開や地域の子どもの支援活動の拡充を図るため、経済団体や福祉団体、行政等による「子どもの愛顔応援県民会議」で創設について御賛同をいただき、令和元年9月定例県議会における関係条例等の議決を経て、創設した。</p> <p>ファンドに寄せられる寄附金等は、県民会議での御意見を踏まえたうえで、令和2年度から、子育て世帯や西日本豪雨で被災された子どもへの支援、貧困や不登校など様々な問題に直面している子どもの居場所づくり、子どもを支える地域の活動を応援する事業等に活用していく。</p> <p>【保健福祉部】 平成28年に成立した「教育機会確保法」において、不登校児童生徒への多様で適切な教育機会の確保について示され、適応指導教室やフリースクール等、学校以外の場における学習や活動の充実を図ることは、不登校児童生徒の将来にとって有意義であると考えられる。 そこで、県教育委員会では、民間のフリースクールに対する支援及び適応指導教室を含め、そこに通う児童生徒への、よりきめ細かな支援の在り方について検討している。 【教育委員会】</p>
	中予地方局 (松山市)	避難所開設時における女性消防団の活動について (女性消防団との連携強化)	<p>消防団は、自分たちの町は、自分たちで守るという理念のもとに活動しているが、大きな災害がこれからも危惧されるので、東、中、南予それぞれ活動はしているが、お互いの連携、意見の交換会がない。連携での勉強会、課題に対する連携とか、話し合いを持てるものがあればいいかなと思う。</p> <p>（知事から、 ・指摘事項、検証事項に入っていた。今年度新規事業の中で消防のカウンターパートを決めるという議論をすることになっている。この中で行政の枠組みとは別に、消防の面で一番効果的なカウンターパートも議論になっていくと思う。 旨回答。）</p>	<p>今後、女性消防団の連携について、女性消防団員確保対策の一環として、県下20市町の女性消防団員が一堂に会する情報共有会の開催を検討している。</p> <p>【県民環境部】</p>
	南予地方局 (鬼北町)	林業教室の学校教育における要望・県産材の販売について (県産材の表示について)	<p>愛媛県産の材木、スギやヒノキなどを使って棚を作ったりする時に、どこで買った方がいいのか、愛媛県の中ではなかなかない。</p> <p>県民が簡単に買って棚などを作ることにより、愛媛県産材の良さを感じていき、大きな家を建てるときも県産材で、といった具合に発展していったらいいと思い、中間のところ、販売店などを県と作っていったらいい。</p> <p>（知事から ・県産材という表示はいいことだと思うので、（表示を）投げかけてみたらどうか。 と指示、 (南予地方局産業経済部長) ・検討する。 旨回答。）</p>	<p>要望を踏まえ、県産材製品を取り扱っている県内ホームセンターに県産材表示を働きかけた結果、3社において、県産材の表示が実施された。</p> <p>【農林水産部】</p>

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
元	南予 地方局 (宇和島市)	防災・減災対策の取り組みへNPO団体の活動支援について (NPO団体等への活動支援)	自分たちの資金では活動に限界があるため、災害初期に動きやすい体制づくりとして、助成とか、コミュニティ財団とか、いろいろな分野で活動していける市民団体をどう支えていくか、県としてどのように考えているか。 こども食堂にも関わっているが、複雑化している社会現象の中で、企業とか団体とか行政が共同して支えていく、また県として今後、持続していくために企業に働きかけをしていただいたり、こども食堂ネットワークのようないろいろな支えがあると嬉しい。  (知事から、 ・提案の内容としっかりとした運営体制であれば、新たな制度『子どもの愛顔応援ファンド(子ども子育て応援基金)』からこども食堂も含めて助成していく。スタートは来年からになる。 旨回答。)	民間資金等を活用したNPO等の初動活動経費の支援の仕組みや、災害ボランティアファンドの活用による市町社協を通じた支援の枠組み等については、社協やNPO等と検討・協議中。(検討中) 官民共同による『子どもの愛顔応援ファンド(子ども子育て応援基金)』は、広く県民や企業・団体の皆様の参画を得て、本県独自の子育て支援策の展開や地域の子どもの支援活動の拡充を図るため、経済団体や福祉団体、行政等による「子どもの愛顔応援県民会議」で創設について御賛同をいただき、令和元年9月定例県議会における関係条例等の議決を経て、創設した。 ファンドに寄せられる寄附金等は、県民会議での御意見を踏まえたうえで、令和2年度から、子育て世帯や西日本豪雨で被災された子どもへの支援、貧困や不登校など様々な問題に直面している子どもの居場所づくり、こども食堂を含めた子どもを支える地域の活動を応援する事業等に活用していく。  【保健福祉部】
	南予 地方局 (愛南町)	須ノ川公園の駐車場・景観整備について (須ノ川公園の駐車場整備について)	ウバメガシの植え込みが駐車場の西側にあるが、そのスペースを何とか駐車場に整備していただきたい。  (知事から、 ・木の伐採と駐車スペースは、その土地が国立公園の指定を受けているかどうかとか、私有地がどうなっているか、迂闊なことが言えない。 旨発言、 (南予地方局総務企画部長) ・ご要望の土地が、どこの土地か、また、その用途を駐車場として利用可能か、確認した上で改めて調べたうえでご相談、町も含めてさせていただく。 旨回答。)	駐車場については、植樹帯撤去・駐車区画整備を行う方向で、国立公園特別地域内における必要な許可手続等について環境省等と協議中。  【県民環境部】
	南予 地方局 (八幡浜市)	地域活性化のための広域的な高校生の活動について (全県の高校生サミットについて)	各地域の問題を解決するために、その地域に住む大人だけではなく愛媛県下の高校生が集まり、議論したり行動したりすることを行えばいいのではないかと。 そうすることで、高校生ならではのさまざまなアイデアが生まれ、人脈ネットワークを広げることができるのではないかと。また、このネットワークも将来にかけても人と人との結び付きという形で生きてくるのではないかと思う。  (知事から、 ・東・中・南予のブロック毎で何かを一緒にやるような話し合い、あるいはイベントも含めての形なら、県もバックアップできると思う。 ・県の既存の事業(文化事業など)に参画することも考えてみたらどうか。 と回答。)	東・中・南予の3会場で高校生による地域活性化ディスカッション等を「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」として、今年度開催した。  (日時・場所) 東予：令和2年1月28日(火)・西条市総合文化会館 中予：令和2年1月24日(金)・松山市総合コミュニティセンター 南予：令和2年2月4日(火)・西予市宇和文化会館 また、来年度以降については当初予算要求中。  【教育委員会】